

## セフトリアキソン投与によりみられる尿沈渣中の薬物結晶検出の有用性について

◎新井 未来<sup>1)</sup>、山本 誉<sup>1)</sup>、余根田 直人<sup>1)</sup>、古谷 善澄<sup>1)</sup>、山田 佑真<sup>1)</sup>、坂口 陽月<sup>1)</sup>、畑 久勝<sup>1)</sup>  
恩賜財団 済生会 滋賀県病院<sup>1)</sup>

【はじめに】セフトリアキソン (Ceftriaxone ; CTRX) は第3世代セフェム系抗菌薬に分類され、血中半減期が8時間と長く組織移行性がよいことから幅広い感染症に使用されている。しかしながら、CTRX投与中あるいは投与後に腎・尿路結石が出現し、尿量減少、排尿障害、血尿、結晶尿等や腎後性急性腎不全が起きたとの報告がある。今回我々はCTRX投与期間中の患者の尿沈渣中に薬物結晶がみられた症例を数例経験し、これを契機にCTRX投与された患者で尿沈渣中に薬物結晶または不明結晶を検出した症例を検索、尿所見と薬物結晶、不明結晶との関連、および結晶検出の有用性について考察したので報告する。

【方法】2022年1月から2023年6月の1年6か月の間にCTRXを投与され、その投与開始～投与終了後10日以内に尿沈渣中に薬物結晶または不明結晶がみられた症例を対象に、患者基本情報、臨床経過、薬剤投与歴、尿定性検査、尿沈渣検査を調査した。

【結果】対象となった8症例は70～90代の高齢者で膀胱留置カテーテルを使用されていた。全ての症例でCTRX投与

中に尿量減少、肉眼的血尿、尿路の閉塞、尿中浮遊物出現のいずれかの異常所見がみられた。尿沈渣中にみられた結晶形態の多くは黄褐色針状、凝集状、不規則板状であった。また肉眼でも確認できるサイズにまで巨大化した結晶もみられた。CTRXに関連する薬物結晶の可能性があるととして臨床に報告した症例についてはいずれも直ちにCTRX投与が中止され、投与中止後1週間以内には尿沈渣中の薬物結晶は消失していた。

【考察】CTRX投与中にみられる尿量減少、肉眼的血尿、尿路の閉塞、尿中浮遊物の出現と尿沈渣中の薬物結晶または不明結晶とは関連があると考えられる。また尿中に析出した結晶により発生する尿路の閉塞が尿量減少の要因である可能性が考えられる。

【結語】CTRX投与中にみられる尿沈渣中の薬物結晶、不明結晶の検出は、尿路閉塞による薬剤性腎障害発症の可能性を示唆する重要な所見であり、検査科からの迅速な報告は臨床への有用な情報提供かつ薬剤の投与中止および変更の判断材料になり得る。 連絡先：077-552-1221 (3520)